

概要版

輝くまち みんなの知立

にぎわう・つながる 自分らしさをかなえるまち

「第7次」

知立市 総合計画

総合計画とは

1 知立市まちづくり基本条例に基づき策定される計画

総合計画は、平成23年の地方自治法改正により法に基づく策定義務はなくなりましたが、本市では、まちづくりの基本理念を明らかにするとともに、協働によるまちづくりを推進することを目的に、「知立市まちづくり基本条例」を策定し、同条例第13条に総合計画を策定することを規定しています。

知立市まちづくり基本条例

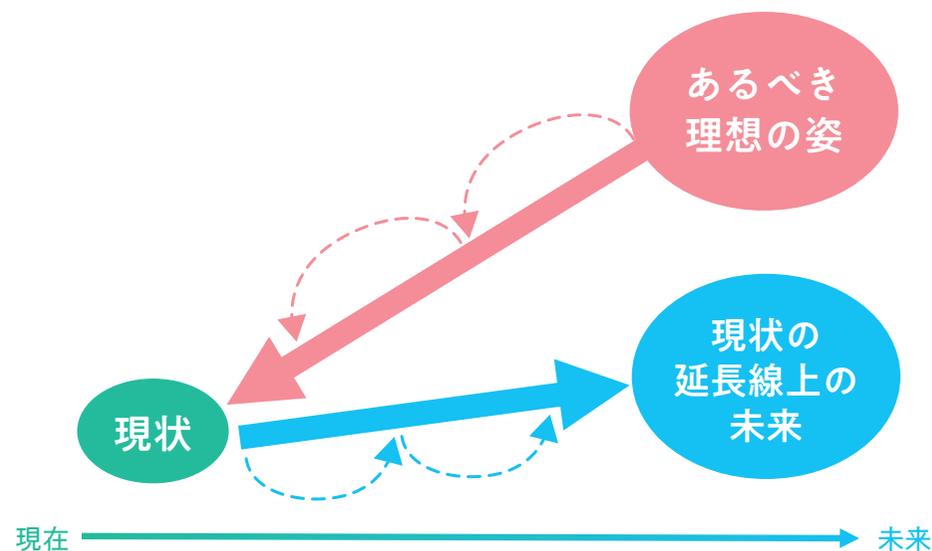
第13条 市は、議会の議決を経て、この条例の理念に基づいた基本構想及びこれを実現するための基本計画（以下「総合計画」という。）を策定し、又は変更するものとします。

2 市政運営における最上位に位置付けられる計画

本市が策定する全ての計画の最上位に位置付けられるもので、中長期的なまちづくりの目標や理想のまちの姿（将来像）を描き、その実現に向けて、本市が取り組むまちづくりの方向性を示します。

バックキャストिंगの視点について

第7次知立市総合計画は、バックキャストिंगの視点を取り入れます。これは、本市の理想とする姿や目標を展望し、その実現に必要な取組を逆算して検討する手法であり、市民が希望する本市ならではの暮らし方や働き方を具体化し、それらをかなえることを目標とした計画を策定します。



第7次知立市総合計画の特徴

第7次知立市総合計画は以下の3つのような特徴を持っています。

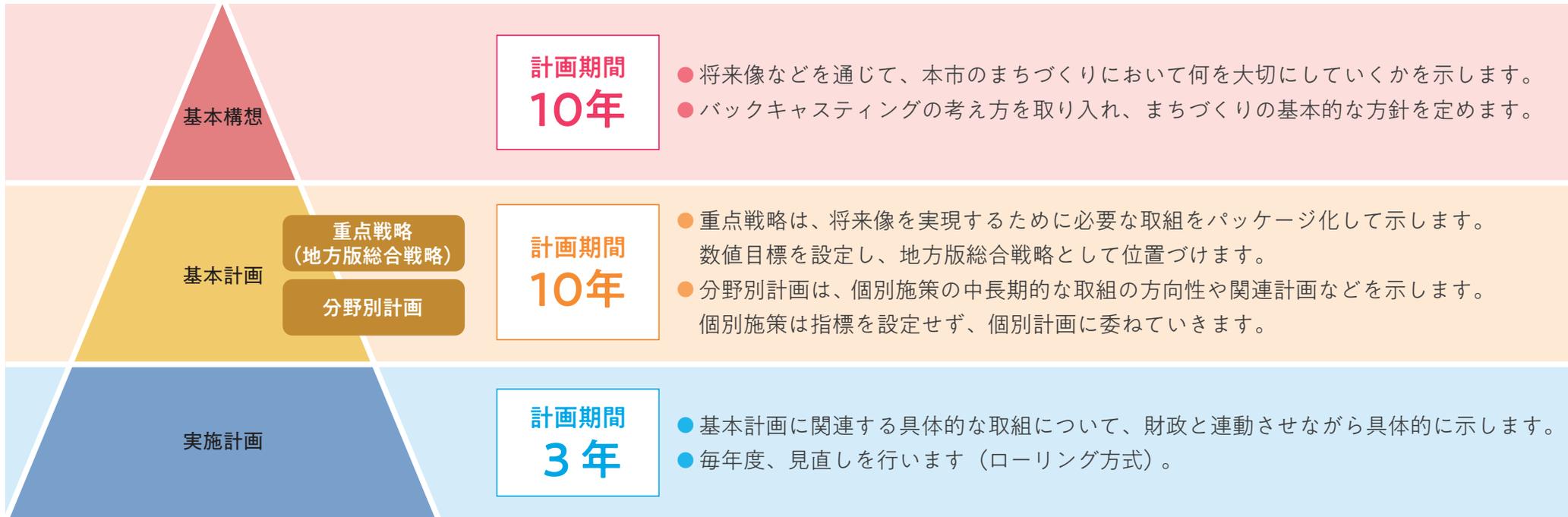
01 重点分野に絞った計画

02 地方版総合戦略と一体化した計画

03 市民・職員が参画してできた計画

総合計画の構成

総合計画は以下のような3層構造により構成します。



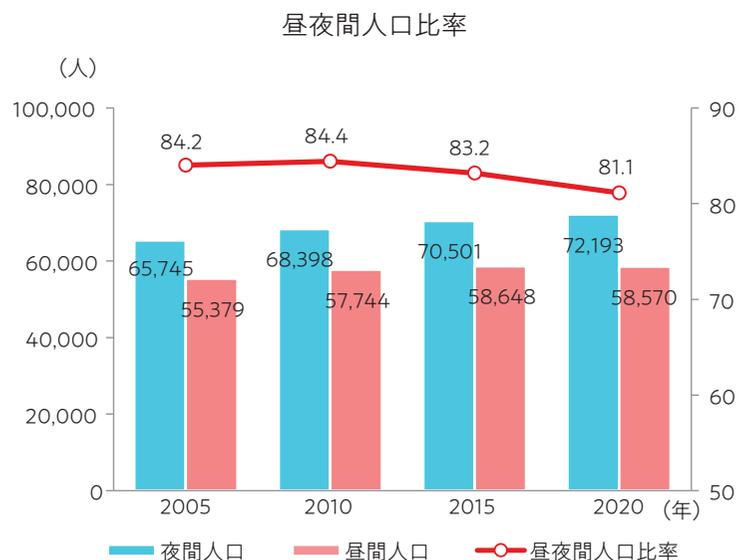
知立市の地域特性

◆コンパクトで密度の高い都市

本市は、面積16.3km²あまりのコンパクトな市域に約7.2万人が暮らしている人口密度の高い都市です。西三河各市や名古屋市とのアクセス性に秀でており、市域を超えた日常生活圏が形成されています。

◆西三河地域の中の暮らしのまち

昼夜間人口比率は81.1であり、多くの人が市外に通勤・通学しています。この数値は年々低下傾向にあり、暮らしのまちとしての性格が強まっています。とりわけ30代から50代の男性の約80%、女性の20代と30代は約70%が市外で働いています。



資料：総務省「国勢調査」(各年10月1日現在)

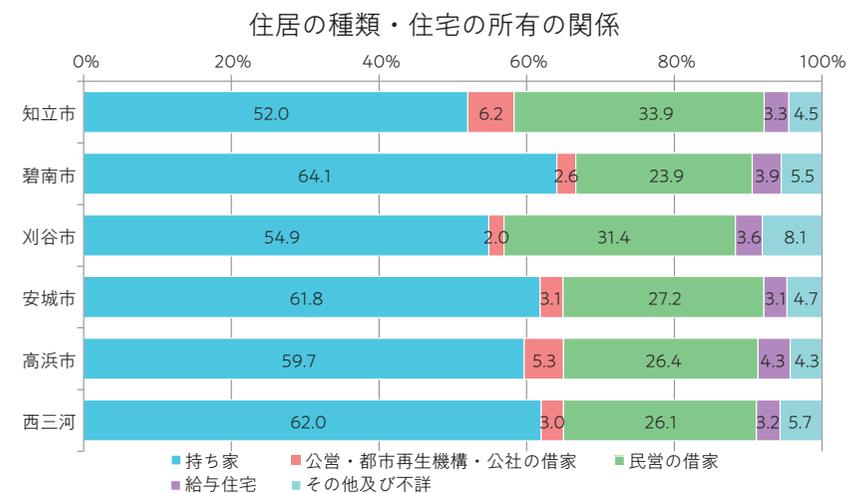
◆歴史に培われた文化が根付いている

本市は、古くから交通の要衝として栄え、東海道39番目の宿場町「池鯉鮒宿」として繁栄したまちです。松並木などの歴史的資源や、知立まつり(例祭)をはじめとする祭事や縁日、寺の市などの文化が残っています。

◆持ち家を購入するまで一時的に暮らすまち

本市では、持ち家の割合が52.0%であり、住居全体の約半数にとどまっています。

碧海5市及び西三河と比較して持ち家の割合が最も低く、住宅を購入する前に住むまちという性格を有しています。



資料：総務省「令和2年国勢調査」

◆多文化共生が根付く地域

本市の外国人人口は約5,000人で、総人口の7%を超えます。増減はあるものの、直近10年は2,000人以上のブラジル人が本市に住んでいます。近年は技能実習制度の影響もあり、ベトナム人が増加しています。

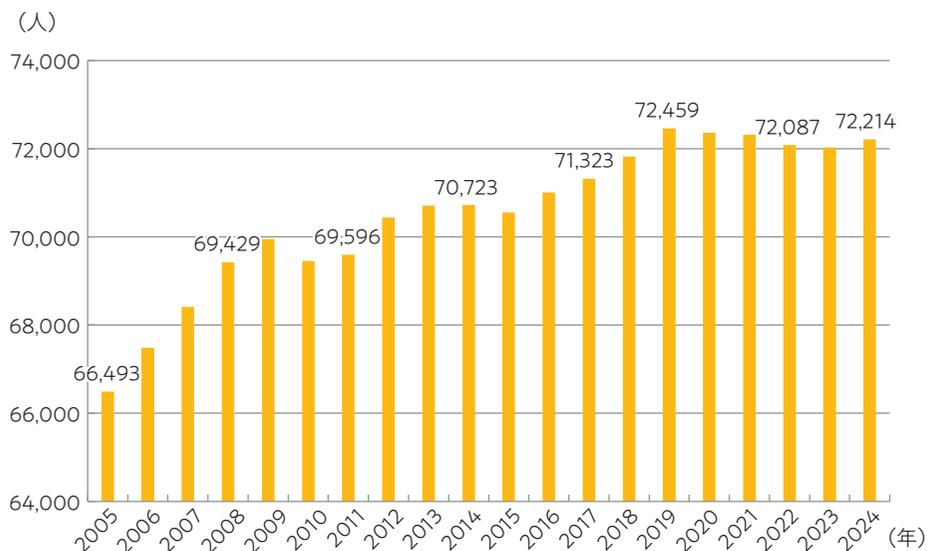
知立市の人口特性

◆人口のピークを迎えつつある

これまで増加傾向にあった本市の人口は、2019年に減少に転じました。市外の自動車をはじめとするものづくり産業に大きく依存した就業構造にあるため、市の人口は業況の影響を受けやすくなっています。

年齢階級別では、全国のような少子化傾向はまだみられません。一方、65歳以上人口は増加を続けており、高齢化が進行しています。

知立市の人口推移

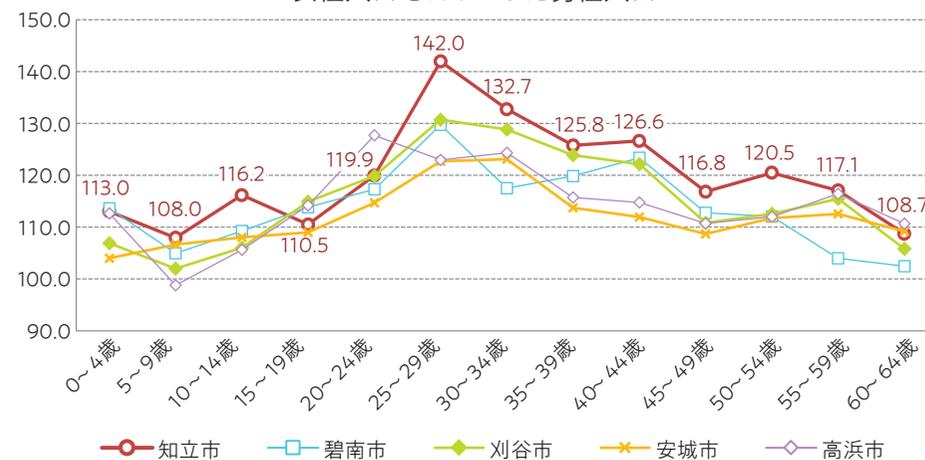


資料：知立市「住民基本台帳」(各年1月1日現在)

◆男性比率が高い

本市は、男性の比率が高い都市です。女性人口を100とした男性人口の比率は、25～29歳で142となっていることをはじめとして20代から50代において極端に男性の多いまちと言えます。

女性人口を100とした男性人口



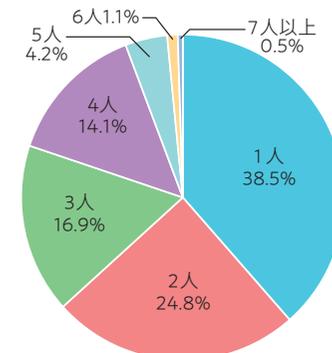
資料：総務省「令和2年国勢調査」

◆世帯規模が小さい

本市は、1人世帯が38.5%で最も多く、2人世帯の24.8%と合わせると、世帯の6割以上が2人以下となっています。

単独世帯が多い影響もあり17歳までの子どもがいる世帯は全世界帯の2割程度にとどまっています。

一般世帯の世帯人員構成比(知立市)



資料：総務省「令和2年国勢調査」

将来像

第6次知立市総合計画においては、「輝くまち みんなの知立～安らぎ・にぎわう 住みよさを誇れるまち～」という将来像を掲げ、様々な施策に取り組んできました。

第7次知立市総合計画においては、「輝くまち みんなの知立」を普遍的な将来像として引き継ぐとともに、今後10年の戦略的な将来像として、「にぎわう・つながる 自分らしさをかなえるまち」を掲げます。

輝くまち みんなの知立

にぎわう・つながる 自分らしさをかなえるまち



この将来像には、次のような意味を込めています。

「**にぎわう**」は、知立駅周辺の大規模事業「100年に一度のまちづくり」を起点にまちが発展していく様子や、子ども・若い世代が集い楽しむ様子、ボランティア活動などが盛んな様子をイメージしています。

「**つながる**」は、交通の拠点として他都市とつながり、人やものが行き来して発展する様子や、市民同士がつながり一緒にまちを育てている様子、本市の歴史・文化が承継されて、未来へつながる様子をイメージしています。

「**自分らしさをかなえる**」は、生活利便性の向上や市民同士のつながりが活性化し、市民一人ひとりが望む多様なライフスタイルを実現できる様子や、多様性への理解・受容が進んでいる様子をイメージしています。

こうありたい知立市の未来

将来像をよりイメージしやすくするため、市内で展開される様々な活動に落とし込んだイメージを「こうありたい知立市の未来」として作成しました。これは市民とともに考えた理想とする暮らし方や働き方でもあり、その実現が総合計画の最大の目標となります。

01

子どもが育つ環境や子育てと生活を両立する環境のよさから、子どもを持つ家族が知立市に魅力を感じ定住する。

- 子育て中の親が希望する暮らし方や働き方がかなう。
- 放課後児童クラブや相談体制の充実により子育てに対する安心感が高まっている。
- 学校教育やスポーツ、キャリア教育¹など、質の高い学びを地域で支える環境が整っている。

¹ 子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけのこと。



生活するまちとしてのブランド力が
高まり、西三河に加え名古屋で働く
人が、知立駅をはじめとする鉄道駅
周辺の居住地として選択する。

- 駅周辺には日用品購入や食事ができる場などができ、近隣に暮らす人たちの生活利便性が向上する。
- 名古屋までのアクセス優位性と利便性の高い生活環境、子育て環境のよさから住みたいまちとして注目される。
- 名鉄名古屋本線・三河線の高架化が進み、沿線のブランド力が一層高まる。
- リバースモーゲージ²などの活用により中古住宅の流通が活性化し、若い世代の住宅の選択肢が増える。
- 古い住宅は店舗や飲食店などにも利用され、個性的で魅力的なスポットが市内各地に創出される。

2 自宅を担保に資金を借り入れし、借り入れした人が亡くなった時に担保である不動産を処分し、返済する仕組みのこと。



03

知立駅周辺の整備をきっかけに、魅力的で便利な地域になり、そこで働く人や立ち寄る人が増える。

- 自身の希望に応じた働き方に合わせた起業にチャレンジする人が増えている。市内に多様なビジネスが生まれ、様々な形態の小売・サービス、観光事業などが登場する。
- 魅力的な店舗が立地するとともに、イベントなどが定期的に行われ、駅周辺に行けば何か楽しい体験ができると思える雰囲気が醸成される。
- 知立駅を利用して通勤・通学する人が駅周辺の施設や店舗を利用するなどして、過ごす時間が増えている。
- 豊富な人材が魅力となり、様々な業種の企業が新たに進出する。



04

様々な人が自己実現したり、交流を深められる場や機会が新たな投資により創出され、まちに対する誇りが育まれる。

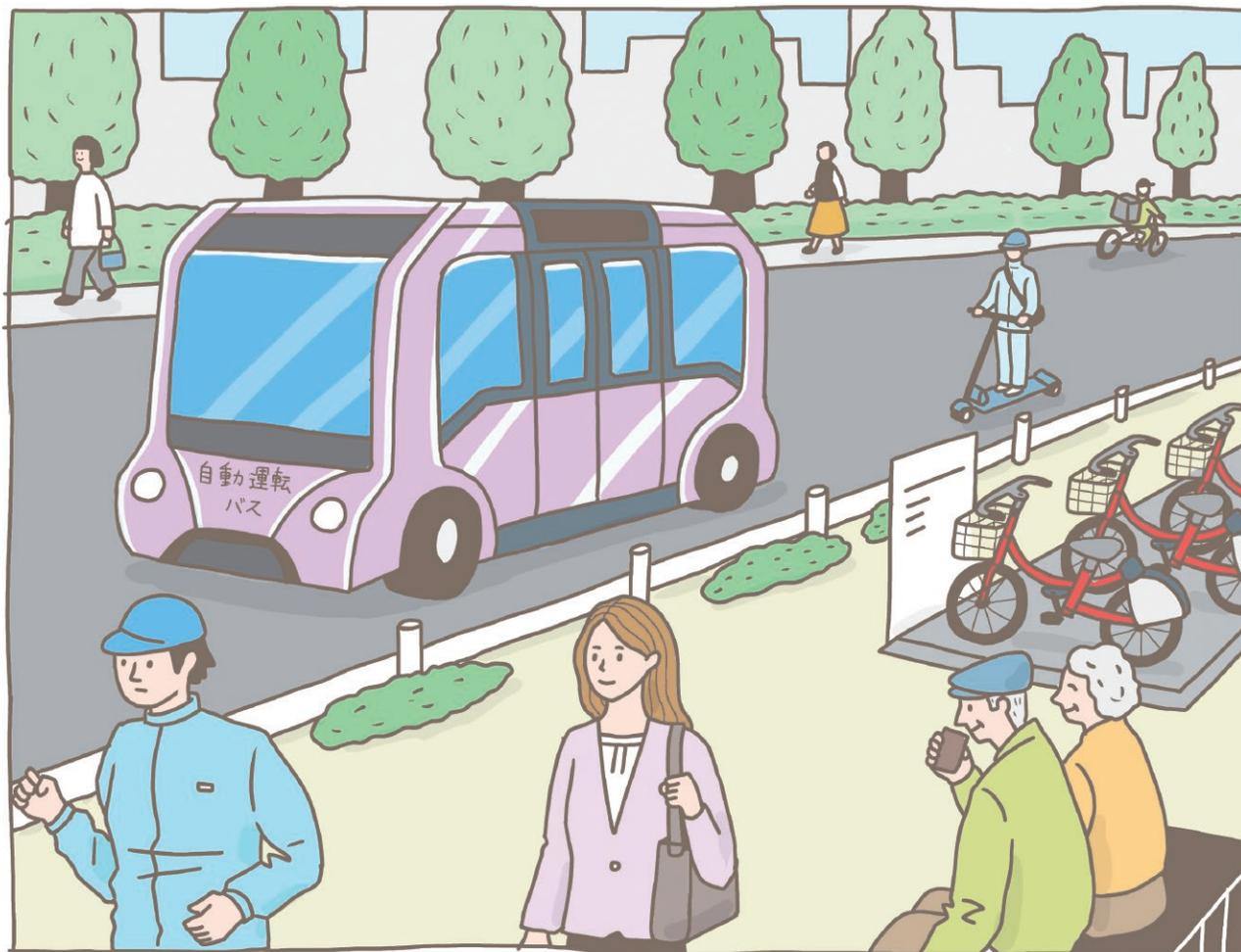
- 公共施設や知立駅周辺整備で生まれる広場などが積極的に利用され、趣味や学び、市民活動などを行うために多くの人が訪れる。
- 市民相互の新たな交流が促進されることで、市民を主体とする多様な活動が生み出される。
- 子どもを持つ世帯が集まり交流できるイベントなどが開催されることにより、子育てを応援するまちとしてのイメージが定着する。



コンパクトなまちの特性を活かして、公共交通や自転車・徒歩による移動がしやすくなるとともに、ゆっくりとした移動を楽しめるまち、遠距離移動に頼らない暮らしが形成される。

- 宅配サービスの普及や自転車などのシェアリングシステム³の導入などにより自家用車がなくても困らない生活環境や移動手段が構築されている。
- まちなかに休憩スポットや立ち寄りスポットが点在し、散策や自転車によるゆったりとした移動を楽しむことができ、健康づくりに関心を持つ人が増えている。

3 場所・モノ・スキルなどの資産を様々な人と共有する仕組みのこと。



06

全ての市民が孤立することなく、地域社会とのつながりを感じながら安心して暮らしている。

- 文化や習慣、価値観の違いを理解しあい、あらゆる人たちがお互いを認め合っている。
- 様々な社会参加の機会が提供されるとともに、誰もが気兼ねすることなく参加しやすい雰囲気が創出され、人との出会いやつながりが生まれている。
- 全ての市民が地域社会の一員であることを認識できている。



地域の歴史や文化、緑を継承するとともに、昔からあるものを大切にすることで、持続可能な風格のあるまちになっている。

- 地元のまつりが盛り上がり、将来の担い手が着実に育っている。古くから受け継がれてきたまちなみや地域活動を次の世代に繋ごうとして活動する市民が増えている。
- 現代の生活スタイルにあわせてリノベーション⁴を行いながらも、成熟した街並みは保全されている。
- 地域の課題を自分ごとととらえ、その解決を目的として活動する市民団体やコミュニティビジネス⁵が増加している。
- 農地が保全されており、都市と緑が調和した良質なまちなみが継承されている。

4 より良いものに改めること。

5 地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むもの。地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、地域コミュニティの活性化に寄与することが期待される。

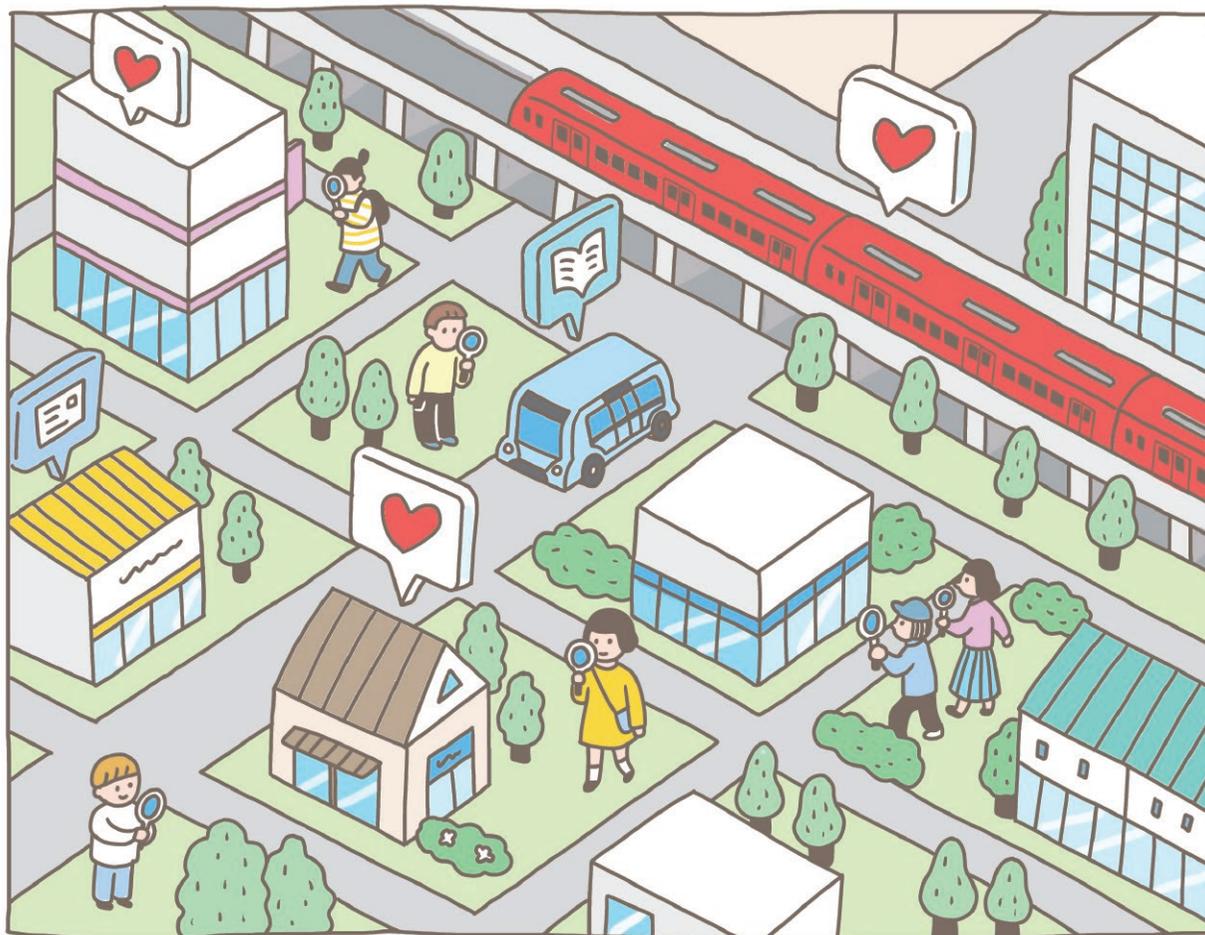


知立市で暮らす魅力やまちのよさが
広く認識され、知立市民であることを
誇りに思う人が増えている。

- SNS⁶やマスメディア⁷による情報発信を通じて知立市の魅力が拡散され、まちの魅力に対する認知度やイメージが向上する。
- これまで知立市に対する思いのなかった市民が、知立市で暮らしている価値に気づく。その価値を更に発信する。
- 子どもたちが、知立市を理解し、好きになっている。知立市に対する興味が高まり、様々な地域活動に参加している。

6 「Social Networking Service」の略称。インターネット上で人と人とのつながりや交流を楽しむことができる会員制サービスのこと。

7 マスコミュニケーションを行うメディアのこと。「マス」は大衆、「メディア」は媒体を意味し、不特定多数に情報を発信するために、報道や教育、広告などの役割を担う組織をいう。



地震や集中豪雨などの自然災害や犯罪に対する不安を感じることなく、安心して暮らせるまちになっている。

- 地域の防災体制が充実するとともに、市民一人ひとりが災害発生時の行動を認識しており、大規模災害に対する不安が少なくなっている。
- 防犯体制や交通安全対策が充実している。



「こうありたい知立市の未来」の9枚のイラストはイメージです。建築物など、将来の完成形とは異なる場合があります。

まちづくりの基本方針

将来像やこうありたい知立市の未来の実現に向けて取り組むことを、5つの基本方針として設定します。

方針

01

結婚・出産・子育て期に住み続けたい まちをつくる

子どもが育つ環境の充実に努めるとともに、子育て世帯が暮らしやすいまちづくりを推進し、子育て期に住み続けたいまちとしてのブランドイメージを形成します。

とりわけ、子育てに対する親の負担やストレスを軽減するとともに、親が実現したい暮らしの希望をかなえるための支援に努めます。

方針

02

居住地として選択される新たな流れをつくる

今後、リニア中央新幹線の開業により名古屋駅周辺の中枢性向上が見込まれる中で、本市の交通利便性を活かし、そこで働く人の暮らしの場としての機能を高めていきます。

また、東海道の宿場町で交通の要衝として発展した歴史など本市特有の地域資源を磨き上げるとともに、多くの人々の交流を促すことで、本市に対する市民の誇りを育み、転出の抑制に取り組めます。

知立駅周辺の整備を契機に魅力的なまちをつくる

方針 03

知立駅付近連続立体交差事業をはじめとする知立駅周辺整備事業は、本市誕生以降で最大のプロジェクトになります。市内の南北の移動利便性を向上させるとともに、市民生活や産業活動の場を再構築し、本市で暮らす、働く場としての魅力を高めていきます。

都市基盤や施設などのハード整備を行うとともに、市民が市内で様々な活動を行い、楽しみながら交流を深め合うための仕組みづくりを行っていきます。

市内に新たな雇用をつくる

方針 04

市内への企業誘致や知立駅周辺に賑わいをもたらす店舗・オフィスなどの立地を誘導することにより、市民が市内で働く選択肢を増やします。

とりわけ市民や通勤・通学で知立駅を利用する多くの人々が、本市で過ごす時間を楽しめるように、様々な形態の小売・サービスなどの誘致・創業や市民による起業を促進します。

多様な市民が安心して暮らせる協働のまちをつくる

方針 05

国籍や世代、家族構成など、様々な人たちが暮らす本市において、お互いの価値観の違いを認め合うとともに、全ての人が孤立することなく社会参加できる地域をつくります。また、市民の主体的な地域活動を促進し、暮らしやすい地域を形成します。



数値目標

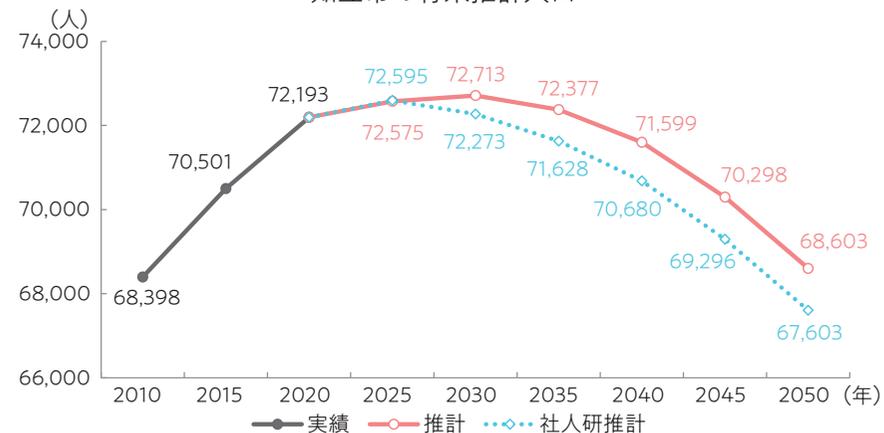
重点戦略（地方版総合戦略）に基づいて各施策を推進することにより、計画期間中における人口規模の維持、若い世代の定着による人口減少や少子高齢化のスピードの鈍化を目指します。そのため、本計画における数値目標は、下記のとおり設定します。

〔数値目標〕

項目	数値目標		
	基準値 2020年	2030年	2035年
総人口	72,193人	72,713人	72,377人
0～4歳	3,215人	2,817人	2,862人
20～29歳	8,887人	9,556人	9,370人
30～39歳	10,022人	9,606人	9,869人

基準値：令和2年国勢調査 目標値：右図で示す将来推計人口

知立市の将来推計人口



資料：国勢調査（実績値）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」（推計値）

知立市の将来推計人口（年齢3階級）



資料：国勢調査（実績値）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」（推計値）

発行：知立市

編集：企画部企画政策課

〒472-8666 愛知県知立市広見三丁目1番地

TEL:0566-95-0114

Email:kikaku-seisaku@city.chiryu.lg.jp